

# 吉田本家山林部

## 定時モニタリング報告書

作成日 令和5年5月31日  
作成者 株式会社森林再生システム

フォレストック認定番号	0046
フォレストック認定日	令和2年4月1日(第1年度)
定時モニタリング日	令和3年4月1日(第2年度)
定時モニタリング日	令和4年4月1日(第3年度)
定時モニタリング日	令和5年4月1日(第4年度)

## 【モニタリング実施概要】

### 1 対象森林の概要

令和2年3月「吉田本家山林部 森林吸収源・生物多様性等調査報告書」記載のとおり

### 2 評価基準

「森づくりにおける森林吸収源・生物多様性等評価基準」令和4年10月1日改訂版

### 3 調査日程

#### (1) 調査日

令和4年5月31日

#### (2) モニタリング担当者名簿

氏名	所属	役職
望月 亜希子	株式会社森林再生システム	主任研究員

#### (3) モニタリング報告書作成責任者氏名

株式会社森林再生システム

望月 亜希子

## 1 フォレストック認定の基礎事情に関する特記事項

- ・ 対象森林の地権関係の変動                   なし
- ・ 対象森林の境界紛争の有無               なし
- ・ 森林認証(FSC、SGEC)及び森林経営計画の継続・更新・取消等の状況   FSC:平成30年3月にて認証終了。  
経営計画(属人):平成30年7月1日～令和5年6月30日
- ・ 対象森林の面積の変動                   なし

## 2 森林管理・経営面に関するモニタリング

### (1)経営主体、経営組織、経営目的変更等の経営管理体制の変更に関する特記事項

ーなし

### (2)(1)の他、「森林吸収源・生物多様性等調査報告書」作成時以降に発生した森林の管理・経営面の認定基準充足に著しい影響を及ぼすおそれ(※1)のある事情

ーなし

### (3)フォレストック認定基準の充足に関する記載

認定調査時と比較し、FSC 森林認証は終了したものの、今後もグループ認証を目指しており、森林の経営管理の体制・方針に大きな変化は認められず、経営管理面の評価は調査報告書と同水準を維持していると判断する。これより、フォレストック認定基準である森林の経営管理面の評価点数50点を維持。

### (4)大きな変化が明らかな(※2)評価項目については、その概要について記載する。

ー大きな変化はない。

(※1)「認定基準充足に著しい影響を及ぼすおそれ」とは、フォレストック認定基準である50点を下回るおそれをいう。

(※2)「大きな変化」とは、フォレストック認定基準の充足とは関係なく、評価を大きく見直す必要がある場合を指す。

### 3 生物多様性等の評価に関するモニタリング

(1)「森林吸収源・生物多様性保全等に関する調査報告書」作成以後に発生した森林の生物多様性の認定基準充足に著しい影響を与えるおそれ(※1)のある事情

ーなし

(2)フォレストック認定基準の充足に関する記載

認定調査時と比較し、周辺環境及び施業方法等に大きな変化は認められず、生物多様性面の評価は調査報告書と同水準を維持していると判断する。これより、フォレストック認定基準である森林の生物多様性面の評価点数 50 点を維持。

(3)大きな評価の増減が明らかな(※2)評価項目については、その概要について記載する。

ー大きな評価の増減はない。

(※1)「認定基準充足に著しい影響を与えるおそれ」とは、フォレストック認定基準である 50 点を下回るおそれをいう。

(※2)「大きな評価の増減」とは、フォレストック認定基準の充足とは関係なく、評価を大きく見直す必要がある場合を指す。

#### 4 CO<sub>2</sub>吸収量の確定・算定

##### (1) 施業に関する数値の集計・整理

##### ① 主伐量・主伐予定量に関する数値の集計・整理

項目	A. 当該年度主伐予定量	B. 主伐実績量		C. B-A	翌年度主伐予定量
		申告済主伐実績量	みなし主伐実績量		
対象期間	令和4年5月1日～令和5年3月31日 (※1)	令和4年4月1日～令和4年12月31日 (※2)	令和5年1月1日～令和5年3月31日 (※3)(※4)		令和5年4月1日～令和6年3月31日 (※5)
ヒノキ	2.00	0.10	0.00	-1.90	2.00
スギ	4.00	5.20	3.00	4.20	4.00
合計	6.00	5.30	3.00	2.30	6.00

※1「当該年度主伐予定量」には、認定取得者から提出された「主伐予定量申告書」に記載されている主伐予定量を記載した。

※2「申告済主伐実績量」には、当該年度の2度の6カ月報告（「施業実績報告書」）の数値を記載した。

※3「みなし主伐実績量」とは、当該年度において2度目に提出された施業実績報告書に記載された、施業対象期間満了日の翌日から翌年度の定時モニタリング日（次年度の年度当初日）の前日までに認定取得者が見込んでいた主伐量のことをいう。上記表のみなし主伐実績量の欄には、定時モニタリングの際に、認定取得者が森林認証機関のモニタリング調査担当者及び当協会に提出する「みなし実績量申告書」に記載された数値を記載した。

※4 認定取得者は、翌年度の定時モニタリング日（次年度の年度当初日）から2週間以内に、「施業実績報告書（みなし期間）」を当社及びフォレストック協会に提出する。当社は、認定取得者から提出された「施業実績報告書（みなし期間）」に記載された申告実績量（以下「確定申告実績量」という。）が事実と異なるおそれがあるか否かについて、定時モニタリング日の属する月の翌月末までに、必要に応じ認定取得者からの聞き取り又は認定取得者に帳票類（森林施業計画、伐採届・伐採許可・造林届出及び販売関係帳票等の写し等）の提出を求める等の手段により調査確認を行い、確定申告実績量の記載内容が事実と異なるおそれがあると思料する場合には、定時モニタリング日の属する月の翌月末までにその旨をフォレストック協会に報告する。（「みなし実績量確認手続」）

※5「翌年度主伐予定量」は、認定取得者が当社及びフォレストック協会に対し、定時モニタリング日（翌年度の当初日）から2か月前までに提出した主伐予定量申告書に記載された数値を記載する。

② 自然災害等による被害(CO<sub>2</sub>吸収量の減算要因)

ーなし

③ 樹種別更新量・更新予定量に関する数値の集計・整理

項目	A. 当該年度更新予定量	B. 更新実績量		C. B-A	翌年度更新予定量
		申告済更新実績量	みなし更新実績量		
対象期間	令和4年5月1日～令和5年3月31日 (※1)	令和4年4月1日～令和4年12月31日 (※2)	令和5年1月1日～令和5年3月31日 (※3)(※4)		令和5年4月1日～令和6年3月31日 (※5)
ヒノキ	4.00	0.00	2.00	-2.00	3.00
スギ	1.00	0.00	1.00	0.00	2.00
合計	5.00	0.00	3.00	-2.00	5.00

※1「当該年度更新予定量」には、年度当初に認定取得者から提出された「主伐予定量申告書」に記載されている樹種別更新量を記載した。

※2「申告済更新実績量」には、当該年度の2度の6カ月報告(「施業実績報告書」)の数値を記載した。

※3「みなし更新実績量」とは、当該年度において2度目に提出された施業実績報告書に記載された、施業対象期間満了日の翌日から翌年度の定時モニタリング日(次年度の年度当初日)の前日までに認定取得者が見込んでいる更新量のことをいう。上記表のみなし更新実績量の欄には、定時モニタリングの際に、認定取得者が森林認証機関のモニタリング調査担当者及びフォレストストック協会に提出する「みなし実績量申告書」に記載された数値を記載した。

※4 認定取得者は、翌年度の定時モニタリング日(次年度の年度当初日)から2週間以内に、「施業実績報告書(みなし期間)」を当社及びフォレストストック協会に提出する。当社は、認定取得者から提出された「施業実績報告書(みなし期間)」に記載された申告実績量(以下「確定申告実績量」という。)が事実と異なるおそれがあるか否かについて、定時モニタリング日の属する月の翌月末までに必要に応じ認定取得者からの聞き取り又は認定取得者に帳票類(森林施業計画、伐採届・伐採許可・造林届出及び販売関係帳票等の写し等)の提出を求める等の手段により調査確認を行い、確定申告実績量の記載内容が事実と異なるおそれがあると思料する場合には、定時モニタリング日の属する月の翌月末までにその旨を当協会に報告する。(「みなし実績量確認手続」)

※5「翌年度更新量」は、認定取得者が当社及びフォレストストック協会に対し、定時モニタリング日(翌年度の当初日)から2か月前までに提出した「主伐予定量申告書」に記載された樹種別更新量を記載した。

(2)(1)の数値につき、森林施業計画、伐採届・伐採許可、販売関係諸帳票などを勘案して、特段の意見があれば以下に記載する。

ーなし

(3)当該年度(第3年度)のCO<sub>2</sub>吸収量確定

当該年度(第3年度)に行われた主伐および植栽実績より、減算および加算される吸収量を算出する。

① 主伐等により控除される吸収量の内訳

樹種	A	B	C	D	E:D×係数	F:C×係数	G:E+F	H:G×44/12
	齢級	面積 (ha)	年間成長量 (m <sup>3</sup> /年)	蓄積 (m <sup>3</sup> )	年間炭素 排出量 (t-C/年)	年間炭素 吸収量 (t-C/年)	計 (t-C/年)	年間CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
ヒノキ	14	0.10	0.13	26	8.6	0.0	8.6	31
スギ	12	8.20	5.50	2,427	589.8	1.3	591.1	2,167
合計		8.30	5.64	2,453	598.4	1.3	599.7	2,198

※年間炭素吸収量およびCO<sub>2</sub>吸収量は、各行で四捨五入または小数点以下切捨て

② 更新等により加算される吸収量の内訳

樹種	A	B	C	D:C×係数	E:D×44/12
	齢級	面積 (ha)	年間成長量 (m <sup>3</sup> /年)	年間炭素 吸収量 (t-C/年)	年間CO <sub>2</sub> 吸収量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
ヒノキ	-	2.00	5.0	2.1	7
スギ	-	1.00	1.4	0.4	1
合計		3.00	6.4	2.5	8

※年間炭素吸収量およびCO<sub>2</sub>吸収量は、各行で四捨五入または小数点以下切捨て

③ 第3年度のCO<sub>2</sub>吸収量

	当該年度 (第3年度) 年間吸収総量	控除	加算	当該年度 (第3年度) 年間実吸収量
年間炭素吸収量 t-C/年	1,317.6	599.7	2.5	720.4
年間CO <sub>2</sub> 吸収量 t-CO <sub>2</sub> /年	4,831	2,198	8	2,641

(4) 次年度の CO<sub>2</sub> 吸収量の算定

① 第 4 年度の CO<sub>2</sub> 吸収総量

	第 4 年度 年間吸収総量	控除	加算	第 4 年度 年間実吸収量
年間炭素吸収量 t-C/年	1,317.6	1.3	2.5	1,318.8
年間 CO <sub>2</sub> 吸収量 t-CO <sub>2</sub> /年	4,831	4	8	4,835

② 主伐等により控除される吸収量の内訳

樹種	A	B	C	D	E:D×係数	F:C×係数	G:E+F	H:G×44/12
	齢級	面積 (ha)	年間成長量 (m <sup>3</sup> /年)	蓄積 (m <sup>3</sup> )	年間炭素 排出量 (t-C/年)	年間炭素 吸収量 (t-C/年)	計 (t-C/年)	年間CO <sub>2</sub> 排出量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
ヒノキ	15	2.00	3.10	542	176.9	1.0	177.9	652
スギ	13	4.00	2.74	1,197	291.0	0.7	291.7	1,069
合計		6.00	5.84	1,739	467.9	1.7	469.6	1,721

※年間炭素吸収量および CO<sub>2</sub> 吸収量は、各行で四捨五入または小数点以下切捨て

③ 更新等により加算される吸収量の内訳

樹種	A	B	C	D:C×係数	E:D×44/12
	齢級	面積 (ha)	年間成長量 (m <sup>3</sup> /年)	年間炭素 吸収量 (t-C/年)	年間CO <sub>2</sub> 吸収量 (t-CO <sub>2</sub> /年)
ヒノキ	-	3.00	7.5	3.1	11
スギ	-	2.00	2.7	0.8	2
合計		5.00	10.3	3.9	13

※年間炭素吸収量および CO<sub>2</sub> 吸収量は、各行で四捨五入または小数点以下切捨て

④ 第 4 年度の CO<sub>2</sub> 吸収総量

	第 4 年度 年間吸収総量	控除	加算	第 4 年度 年間実吸収量
年間炭素吸収量 t-C/年	1,318.8	469.6	3.9	853.1
年間 CO <sub>2</sub> 吸収量 t-CO <sub>2</sub> /年	4,835	1,721	13	3,127



## 5 評価・算定数値向上のための指摘事項

### 6 報告書作成にあたり確認等した資料及び書類等

- ・ 施業実績報告書(6か月報告、みなし期間)
- ・ みなし実績申告書
- ・ 主伐予定量申告書
- ・ 森林経営計画
- ・ 森林経営計画に係る伐採等の届出書

# 定時モニタリング結果報告 (第4年度)

認定取得者名;吉田本家山林部  
対象森林所在地;三重県度会郡大紀町他  
フォレストック認定日:令和2年4月1日  
定時モニタリング日:令和5年4月1日  
モニタリング報告書作成日:令和5年5月31日

## 1. 生物多様性の評価に関する特記事項

(「森林吸収源・生物多様性等調査報告書」作成時以降の著しい変化)  
ーなし

## 2. 森林の管理・経営の評価に関する特記事項

(「森林吸収源・生物多様性等調査報告書」作成時以降の著しい変化)  
ーなし

## 3. 森林吸収源(CO<sub>2</sub>吸収量)の確定

(1)第1年度(令和2年4月1日～令和3年3月31日)確定数量

年間炭素吸収総量 : 1,313.8 t-C/年  
年間CO<sub>2</sub>吸収総量 : 4,817 t-CO<sub>2</sub>/年  
実年間CO<sub>2</sub>吸収量 : 3,076 t-CO<sub>2</sub>/年

(2)第2年度(令和3年4月1日～令和4年3月31日)確定数量

年間炭素吸収総量 : 1,315.2 t-C/年  
年間CO<sub>2</sub>吸収総量 : 4,823 t-CO<sub>2</sub>/年  
実年間CO<sub>2</sub>吸収量 : 1,647 t-CO<sub>2</sub>/年

(3)第3年度(令和4年4月1日～令和5年3月31日)確定数量

年間炭素吸収総量 : 1,317.6 t-C/年  
年間CO<sub>2</sub>吸収総量 : 4,831 t-CO<sub>2</sub>/年  
実年間CO<sub>2</sub>吸収量 : 2,641 t-CO<sub>2</sub>/年

(4)第4年度(令和5年4月1日～令和6年3月31日)算定数量

年間炭素吸収総量 : 1,318.8 t-C/年  
年間CO<sub>2</sub>吸収総量 : 4,835 t-CO<sub>2</sub>/年  
実年間CO<sub>2</sub>吸収量 : 3,127 t-CO<sub>2</sub>/年

証明者住所: 〒102-0093 東京都千代田区平海町2-3-5 2F  
証明所属機関: 株式会社森林再生システム  
氏名: 望月 亜希子

